

らい 来ぶらり 22

カラの雑談



最近、街の中にカラのブームがはやっている。そのカラはお菓子のカラムーチョ、唐ガラシのカラ等、グルメ文化の1つとして活躍している。このカラに関する歴史的文献資料として知られている『古事記』『日本書紀』『万葉集』のなかでは、「唐」と「韓」で表記されている。つまり、カラという言葉は外国の意味を持つ単語あるいは接頭辞から出発して、カラの国と言う意味にまで発展して来た。

そのカラの国がいま歴史的瞬間へ向けて、大変身を遂げようとしている。1988年9月17日から10月2日までの16日間、日本の東京に次いでアジアで2番目のオリンピックの聖火がカラの国、ソウルにともろうとしている。

地球にある161カ国から選手、役員が参加するソウルオリンピックの大会は、単にスポーツの祭典としてではなく、カラとカラの文化を知ってもらうためにさまざまな文化公演や観光ツアーも用意されているのである。

そこで最初に、ソウルオリンピックの施設を紹介し、その次にカラの文化の都である慶州へいっしょに行ってみましょう！

ソウル特別市江南区蚕室にあるソウル総合運動場、ここにはメイン・スタジアム、蚕室体育館、蚕室水泳場、蚕室学生体育館がある。

メイン・スタジアムは、10万人という多くの人

員を収容できるところで、オレンジ、青、黄、緑に色分けされた72段の座席があり、スタジアムの出入口は選手・役員用と観戦客用を合わせると、全部で64カ所にもなる。

ソウル特別市江東区のオリンピック公園には、体操競技場、水泳競技場、テニス競技場、オリンピック会館がある。

サッカーの場合は、予選リーグが大田公設運動場、光州市民運動場、釜山九徳運動場で行われる。

ソウルオリンピックの開会式は、9月17日(土)10時30分から始まる。前後に行われる華やかな伝統芸能ショーやカラの武芸である跆拳道テコンドウのデモンストレーションは見ものだろう。

一方、閉会式の方は10月2日(日)19時~20時20分の80分間、公式行事と舞踊ショーで大会の幕を閉じるのである。

奈良の飛鳥を巡ると、一木一草ことごとく歴史を語るという。カラの国、慶州の町を歩いてもあるの大和朝廷の人々と同じような感慨を持つカラの人々は少なくないだろう。

ソウルから南に向かって、約362kmのところにある私の故郷、大邱から高速バスで45分しかかからない慶州は、935年新羅が滅亡するまで、王城の地として君臨した都である。市内では、あちこちで発掘作業が行われ、古墳や石像、古寺が散在している。

市内を歩くと、芝生の青々とした古墳や石像に出会って、いつの間にか古代新羅王朝の時代にひき戻されて行くようである。

慶州駅からバスで30分ほどのところにある仏国

寺は、535年に建立された。青雲・白雲橋の石橋、大雄殿、極楽殿などが広い境内に立ち並び、かつて、カラの国で大寺院と言われた往時をしのばせている。

仏国寺から再びバスに乗って20分ほどの山の上にある石窟庵には、新羅芸術随一と言われる純白の花こう岩を丸彫りにした釈迦如来像が端座しているのである。715年に造られたこの本尊は、新羅のそしてカラの国の波乱に満ちた歴史を気高く静かに眺めていたのだらう。ここから見られる東海を渡って、当時の人々は数多くの大和朝廷の人々と握手を交わしたことだろう。

最後に、私の母校である啓明大学の図書館に関する思い出を少し述べたい。

大邱市南区大明洞2139番地にある第1のキャンパスと、大邱市郊外にある城西第2キャンパスを持つ啓明大学校は、1954年4月、私設学術講習会「啓明基督學館」という名で開校した。ちなみに、

韓国の場合は総合大学、つまり日本で言うユニバーシティは大学校と言うのである。その大明洞にある第1キャンパス図書館は1981年に建てられた地上10階の赤レンガの建物である。おそらく、韓国においてソウル国立大学に次ぐ図書館の規模であると思う。

その1階は閲覧室で若い大学生たちの活気ある場所であり、デートや学生運動、レポート・学期末試験の勉強をするところでもある。

2階は学習院大学にある開架図書室と同じような部屋で、真の勉学部屋ともいえる場所であろう。

「百聞は一見にしかず」というように私がいくらカラに関する事や文化を説明しても、みなさんにはものたりないでしょう。私はカラと大和が「近くていちばん親しい国」になれるように希望します。

(国文学専攻博士前期課程2年 ^オ ^{ビョン} ^ウ ^東 ^禹)



西武新宿線沼袋駅から中野駅方向へ歩いて7、8分のところに、おもちゃ美術館があります。この美術館は「みる・作る・調べる・かりてあそぶ」の4つをモットーに1984年、芸術教育研究所の付属機関として設立されました。

所蔵するおもちゃは30万点（日本のおもちゃ・外国のおもちゃ・手作りおもちゃ各10万点）にのぼり、その一部が展示されています。2階の常設展示室には、アメリカ・西ドイツ・ソ連・中国などの世界のおもちゃや、十二支・小さなおまごど道具などの郷土色ゆたかなおもちゃ、3階のメイン展示室には所蔵のおもちゃがテーマにそって展示されています。今は「赤ちゃんの世界とたのしいおもちゃ展」で、4月末と9月末に展示替えがあります。

ここでは展示のほか、日替わりで子供絵画教室・

手作りおもちゃ教室などの催物も行われています。おもちゃというと、おもちゃ屋さんで買うものと決めつけていましたが、身の回りにある物、しゃもじやあわ立て器がちよつとした工夫でおもちゃになったり、からのフィルムケースが布をはりつけるだけで人形になってしまうのには驚きました。また週に1度土曜日には2,000点のおもちゃの中から貸出しが行われ、0歳から100歳まで幅広い年齢の方々にご利用されているそうです。

あなたも、たまには童心にかえてみませんか？
〔中野区新井2-12-10 ☎03(387)5461 開館時間：10:30～17:00（入館は16:00まで） 休館日：12月28日～1月3日 入館料：300円〕

(国文学専攻博士前期課程2年 内本さつき)

世界のユニークなおもちゃが並ぶ展示室



『教会法大全』(Corpus juris canonici)は、中世ローマ・カトリック教会の信仰、道徳、規律に関する法源を集成したもので、『カノン法大全』ともいわれる。12世紀以来教会法学が発達し、いくつかの法令集が生まれたが、1582年、教皇グレゴリウス13世が、法文の混乱を是正するために『グラティアヌス教令集』『グレゴリウス9世教皇令集』『第六書』など6編を校訂・出版し、以後これらの総称として正式にこの名で呼ばれるようになった。

当時、ローマ・カトリック教会は、国家とは別個の独立社会を形成し、教会裁判所の管轄事項は、純宗教的事件に限らず、広く婚姻、遺言、契約にもわたり、世俗裁判所がこれらの事件を処理する場合にも教会法が適用されたという。

このラテン語の書物は、1918年に『教会法典』(Codex juris canonici)が施行されるまで

現行法としての効力をもち続け、教会法は、婚姻制度の強化、刑罰制度の緩和、婦人の法的地位の向上など、法律のあらゆる部門にわたり、ヨーロッパ諸国の国法、国際法に強い影響を及ぼし、今日のわれわれの法思考のよって立つところとなった。

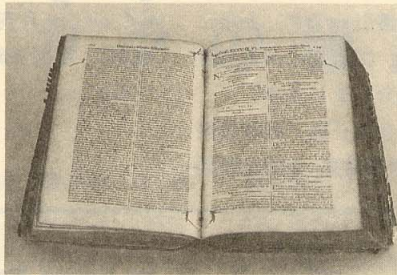
さて、1904年(明治37年)当時の院長近衛篤

麿氏の寄贈により当館にもたらされた1冊は、リヨンで1616年に発行されたものである。無数の赤と緑のアンダーラインがほどこされ、さらに書き込みの細密さ、小口に番号を付した見出し紙が整然とはられていることなどから、教会法の実務に

使用されていたのではないかと想像される。手にとると、くり色のかつらも重々しく、羽根ペン片手に本書をひもとく男一神に仕える男の姿がほうふつとして浮かんでくるのである。なおこの本が出版された年には、シェークスピア、徳川家康が没し、徳川幕府はキリスト教の伝来を禁じた。(洋書係 熊沢夕輝子)

教会法大全

—Corpus juris canonici, 1616—



経験が頼りです！

4月から運用課に配属され、カウンター業務のかたわら文献複写を担当しています。就職して振り出しは法経図書室の出納係でしたし、図書館に移ってからも当番でカウンターに出ていましたので、あまり違和感なく仕事に取り組んでいます。

文献複写係としてパリの国立図書館あてに1482年出版の本のコピーを依頼したり、あるいはエール大学貴重書図書館から届いた偶然同じ1482年出版の本のコピーを手にしたりとすると、学習院大学図書館が外国の図書館とかかわりを持ち、古い本も扱っていることを実感します。

3月までの9年間は整理課で洋書を担当していました。始めの3年ほどは覚えることが多くて相当に勉強しました。去年もUtlas導入準備等のために寝不足になったりして忙しく過ごしました。今、洋書係の仕事量から解放されて一息つきながらも、Utlasを軌道に乗せる戦列を途中で離れてしまったことが少々心残りではありません。

運用業務の特色は量よりその多様性にあるようで、これまでの経験をフルに活用しながら目下奮闘中です。まずは仕事の手順をせつせとメモしているところです。(運用係 広瀬淳子)

「岩波文庫」の創刊60周年を記念して、昨年『岩波文庫総目録 1927-1987』が刊行された。全書目を年代順に配列し、巻末に書名、著訳編者名、分野別書名の各索引を付している。ちなみに、60年間で最も多く読まれたのは『ソクラテスの弁明・クリトン』120万部とか。参考室備え付け。

参考室あれこれ

「遷都に関する資料を探しています」「東南アジアからの外国人労働者の問題を取り上げた資料はないですか」「農産物自由化、貿易摩擦について何か資料がありますか」などカレントな事柄の質問に対して、たとえば遷都については『東洋経済』2月13日号に「超過密都市・東京はどこへ行く」、『建設月報』第41巻第1号に「遷都論ブームによせて」が掲載されていると教えてくれるのが「雑誌記事索引」です。上手に使えばとても便利です。図書館にある「雑誌記事索引」をいくつか紹介しましょう。

○『雑誌記事索引 人文・社会編』『同 科学技術編』(国立国会図書館編) 学術雑誌・大学紀要類

約3,000誌を対象として記事を集めている。農産物自由化についてなら、主題項目で産業〈農産物〉、経済〈貿易〉をひくと関係論文がかなり引き出せる。

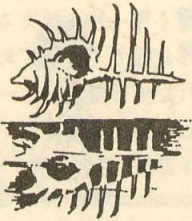
○『産業経済インデックスー産業経済雑誌主要記事索引ー』(日本開発銀行情報センター編) 特定の分野の専門誌・業界誌を多く収録。

○『マンスリー インデックス』(ビジネスインデックス社) 遷都、外国人労働者といった言葉から記事を探すことができる。

○『Joint 一月刊雑誌記事索引』(経済文献研究会編) 「経済編」と「産業・企業編」に分かれている。

※ 法経図書室所蔵
(参考係 甲斐静子)

受け入れこぼれ話



受入係には、学内各部署で購入等の和・洋書が、年間4万冊余り入ります。時に芸術作品のような豪華本あり、貴重書ありで、本にも人と同じように表情と言いますか、お国ぶりがあります。おおむね日本や米国のように規格化された本は扱いやすく、丈夫にできていますが、紙質や製本技術が悪く取り扱い要注意の国の本もあります。中でも係泣かせは、各ページの大きさが不統一、おまけに小口を裁断していないフランスの本で、受け入れ業務に手間取ります。このボヤキを耳にした上司が教えてくれますには「ヨーロッパでは、製本は女性のたしなみで、母から娘へとその技術が伝えられ、花嫁道具の中には、その機具一式も入っていた。各家独自の製本で、しかも、1ページごとに切って読むことに至福を味わっていた名残なのです」と。さすが芸術の国と言うべきか、画一的なものを好みがちな日本人の感覚とは違いますね。色々な本との出会い、それは、私にとってささやかな役得でもあります。(受入係 田村節子)

お知らせ

○夏休みも図書館は利用できます。

7月21日(休)から9月14日(休)までの期間は、次のとおり開館しています。

平日：8:50～16:30

土曜・日曜：休館(ただし9月3日・10日は12:00まで開館)

○夏休み長期貸出しが始まります。

取扱い期間：7月7日(休)～9月14日(休)

返納期間：9月19日(月)～9月28日(水)

貸出し冊数：学部学生……5冊まで

院 生

論文貸出(4年生) } ……10冊まで

○「論文貸出」の登録受付中

卒論・ゼミ論のテーマが決まった学部4年生を対象に通常の貸出しとは別枠で「3冊・1か月間」の館外貸出しをします。2階カウンターで受付中。

来ぶらり No22 1988年7月1日発行

発行責任者：森永毅彦 編集委員：工藤晶子 北村 誠

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221